一級河川の都市 加古川 水を訪ねるコース

14kmコース

コンセプトポイント

1 太子岩（たいしいわ）

607年、聖徳太子は推古天皇から加古川下流の土地100町を貰い受けた。聖徳太子が、加古川からその100町の土地までの用水路を作る際、堰を設置する基準にした岩だと言われている。1989年に加古川大堰が完成するまで、この用水は1,000年以上にわたって加古川下流地域の田畑を潤し続けた。現在、太子岩の大半は土砂に埋まり、岩の一部しか見る事はできない。

チェックポイント この太子岩から流れた用水は周辺の5つの地域を潤したことから、五ヶ井と呼ばれるようになった。

2 加古川大堰（おおぜき）

長さ422メートルで、加古川左岸の八幡町から、右岸の上荘町に架かっている。治水と水需要に対処するため、9年の歳月を経て1989年3月に完成した。大堰上流では加古川市民レガッタなど各種行事が行われている。左岸にある大堰の事務所の南側には大堰記念公園があり、加古川の流れを望む憩いの空間となっている。

チェックポイント 左右両岸には、魚道が整備されている。遊泳能力の高い、オイカワ、アユ等が見られる。

3 加古川右岸河川敷（両荘地区）

一級河川「加古川」の堤防下にある加古川河川敷公園は、テニスコートやグラウンド、自由広場など、スポーツが楽しめる施設に加え、周囲の環境もよく、植物や水鳥などの観察にも適している。市民の憩いの場として親しまれている。

4 水管橋（すいかんきょう）

1980年に完成した、直径1.2メートル、全長426メートルの工業用水送水管の橋で、送水管を2条渡している。送水管は、平荘湖や権現ダムの水を右岸の東神吉町から左岸の加古川町へ渡し、臨海部の工業地帯へ1日に約2万トン送水している。上は歩道橋になっており、自転車・歩行者専用の市道としても役立っている。

チェックポイント 加古川まつり花火大会の花火は、この水管橋から打ち上げられている。(2010年から)